

## 食と農

## 食と農:私の思い 大阪府漁協青壮年漁業者連絡協議会会長・音揃政啓さん

## ◇漁業のため森整備 流れる水、海に影響

――「漁民の森づくり」として、山の植林活動などを行っています。

音揃さん 東北地方で、森をきれいにしたら魚が戻ってきたという話を聞きました。そのころ、大阪の山は林業に携わる人が減少して荒れ放題になっていると聞き、手伝いを始めました。01年から漁協の青壮年協議会のメンバーらで、堺、岸和田、貝塚、泉南の4市と岬



町の森で年2回、植林と下草刈りをしています。大阪で暮らす人でも、大阪湾で魚が取れることや大阪湾に漁師がいるということを知らない人もいます。漁師が山に登るという逆の行動をとることで、大阪の漁業をアピールするのも狙いです。

――海、川と森は密接につながっているんですね。

音揃さん 実感するようになったのは、01年の家電リサイクル法施行以降です。底引き網にテレビや冷蔵庫、時にはバイクなどの粗大ゴミがかかるようになりました。リサイクル費用を払うのが嫌なのか、川に捨てる人が増え、海まで運ばれたのだと思います。

一方、下水、排水の処理が行き届き、海に流れ込む水がきれいになりすぎたことも海や漁業に影響を与えています。処理場で窒素やリンを減らすため、そうした海の栄養分が足りなくなっています。富栄養化で起きる赤潮とは逆に、青潮が発生するようになりました。

――養分が減るとどうなるのですか。

音揃さん 養分が沖に届きにくくなるので、それを食べるシラスやイカナゴも沖に出なくなっています。そのため、シラスなどを食べる魚も沖合に少なくなっているという状況です。さらに、関西国際空港、神戸空港など埋め立て地が増えた結果、潮流が変わったことも魚の減少につながっています。

――森を手入れすると、どのように海が変わるのですか。

音揃さん まず、落ち葉が養分となる広葉樹の森をつくることから始めます。そうすれば、その養分を蓄えた土が川へ、さらに海へと流れ込みます。針葉樹ばかりだと赤土になるので、逆にノリやカキなどの海産物を傷めてしまいます。宮城県では、山にブナを植えたら海で養殖するカキが良く育ったと聞きます。

木を育てることで、海が育ちます。また、田畑が耕作放棄されず維持されていれば、養分のある土が流れ込みます。林業、農業、漁業すべてがつながっていると思います。

――大阪の漁業の将来は。

音掬さん 古来の文献には「魚庭」と書いて「なにわ」と読ませた史料があります。大阪湾は魚が取れる庭のような豊かな海でした。原油高や小売価格の下落で環境は厳しいのですが、漁師を志す若者もいます。50年後、100年後も、大阪湾のおいしい魚が食べられるようしたいですね。【聞き手・井出晋平】

=====

## ■人物略歴

### ◇おんぞろ・まさひろ

大阪府岸和田市出身。親子代々の漁師で、現在、おじ、弟、長男と船団を組み大阪湾でシラス、イカナゴ漁などを行う。岸和田市漁業協同組合理事。48歳。

毎日新聞 2008年11月24日 大阪朝刊

[食と農 アーカイブ一覧](#)